

大軍拡に異議あり

文化人・自民重鎮ら

岸田大軍拡、敵基地攻撃能力の保有に反対や危惧の声が広がっています。



「重大な転換、国民に諮っていない」

河野洋平元自民党総裁 「(安保3文書は) 戦後日本の国柄を変えるほどの重大な政策転換なのに、国民に諮ったことは一度もない」「(敵基地攻撃能力の保有は) 外国の領土・領海の中で武器を使用し、破壊を試みるものだ。憲法の本質や専守防衛と相いれない」(沖縄タイムス1月20日付など)

福田康夫元総理 「『中国と本当に戦争をした』ということについて、もう少し日本は重く考えるべき」「中国を念頭において軍事力を強化するみたいなことを政治家が平気で言ってるけど、そんなことはおかしい」(雑誌『世界』2月号)

「大変な問題、

どんどん決めていく。怖い」

俳優・吉永小百合さん 「怖いのは、昨年末、サッカーのワールドカップ(W杯)で日本中が沸き返っていた時期に、敵基地攻撃能力や防衛費増額という大変な問題を、みんなで考えるんじゃないかと、どんどん決めていこうとした動きです」(東京新聞1月1日付)

「新しい戦前に」

タレント・タモリさん 黒柳徹子さんとの対談番組で「来年はどんな年になるでしょう」と聞かれ、「新しい戦前になるんじゃないでしょうかね」(テレビ朝日系、昨年12月28日放映)

トルコ・シリア地震

緊急募金にご協力下さい

日本共産党

トルコ・シリア地震で緊急支援募金を受け付けます。国際機関などに届けます。募金の送り先は以下の通りです。

郵便振替 ▼口座番号 00170-9-140321

▼加入者 日本共産党災害募金係

※通信欄に「トルコ・シリア地震募金」と記入して下さい。手数料はご負担願います。

反共は戦争前夜の声

共産党躍進で「平和の審判」を



神戸市での演説会で訴える志位和夫委員長(後ろ向き) 11月23日(しんぶん赤旗)提供

日本共産党

「反共は戦争前夜の声」。1950年4月3日、朝鮮戦争(50年6月25日～)の前夜、故蜷川虎三京都府知事は訴えました。「歴史を振り返るまでもなく、反共は戦争前夜の声であり…戦争への道である」。

「攻撃の前にやることがある」

一部大手メディアは、大軍拡にまともな批判もしないまま共産党攻撃のキャンペーンをしています。著名な憲法学者は「日本共産党を攻撃する前に、もっとやることがあるんじゃないか」と批判しています。

日本共産党は反戦平和を貫いて101年、大軍拡強行に真

正面から対決しています。

「きっぱり対決、共産党」

ある自民党の重鎮は「国会で堂々と敵基地攻撃能力の保有は憲法違反だ、専守防衛を投げ捨てるものだときっぱり言っているのは日本共産党だけだ」と語っています。

2月23日、神戸市で行われた演説会で志位和夫委員長はこう訴えました。「反共の次に戦争がやってきた。日本を再び『戦争前夜』にしてはなりません」。そして「共産党躍進で反共キャンペーンを打ち破り、平和の審判を」。

近畿民報

2023年3月 No.2(第540号) 発行/日本共産党国会議員団 近畿ブロック事務所

〒537-0025 大阪市東区中道1-10-10ホクシンビース102号 Tel.06(6975)9111 Fax.06(6975)9115 Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は以上の見解を発表しました。

折り返し